

氏名	森 美紀	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	母性看護学、助産学、看護教育学				
学位	修士（看護学）				
学歴	1992年3月埼玉大学教養学部教養学科、2003年3月千葉大学看護学部看護学科、 2009年3月千葉大学大学院看護学研究科博士前期課程				
経歴	2010年4月～2014年3月 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教、2017年4月～2019年3月同左（育休代替）、 2019年4月～2022年3月 武蔵野大学看護学部看護学科准教授、 2022年4月～現在 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授				
所属学会（役職）	日本母性看護学会、日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本生殖看護学会、 日本看護学教育学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	The feasibility of a multidisciplinary online lymphedema prevention program 'Let's Rinpafushu Yobo' for Japanese survivors of breast and gynecologic cancer	共同	The 25th International Psycho-Oncology Society (IPOS 2024) in Maastricht, the Netherlands		○Tsuchiya M, Masujima M, Tazaki M, <u>Mori M</u> , Kimata A, Fujita R	2024.9
2	産科スタッフのためのやさしい日本語研修の試みと評価	共同	日本国際看護学会第8回学術集会（大分県）		○齋藤恵子、浅井宏美、千葉真希子、 <u>森美紀</u> 、山口乃生子、林恵津子	2024.12
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	健やかな妊娠・出産・子育て期を支える『産科スタッフのためのやさしい日本語』研修プログラム	共著	埼玉県立大学開学25周年シンポジウム		○齋藤恵子、山口乃生子、浅井宏美、 <u>森美紀</u> 、千葉真希子、林恵津子、森正樹	2025.2
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤C）	高年齢不妊カップルのための不妊治療に関する意思決定支援ガイドの実装研究			研究分担者	2022.4～2026.3

3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	周産期のケア	○	4	助産系（3年生17名）の必修科目・演習科目である。「健康教育」「地域での子育て（虐待予防を中心）」「退行性変化と退院後の支援」等、講義を担当した。これまでの実務経験をもとにより具体的な例を紹介したり、学生が実習で活用できるように事例のアセスメントを中心に据えた講義にするなど工夫した。また、新任助教の講義について、授業案の作成時点から支援した。
2	母性看護学Ⅱ		4	3年生130名の必修科目である。妊娠期の講義を担当した。妊娠の生理・身体・心理面、異常等について、既習の知識（性と生殖等）を確認しながら看護支援を例示し、学生が具体的に考えられるよう促した。ロールプレイを取り入れたり、適時学生に質問を投げかけるなど、学生が主体的に授業に参加できるよう留意した。
3	分娩期のケア		3	助産系（4年生22名）の必修科目である。「分娩助助の意義・原理」「異常分娩と看護」の講義を担当した。既習の知識を確認しながら、看護支援について例示し、学生が具体的に考えられるよう進めた。また、これまでの実務経験をもとに、具体的な例を紹介するなど、学生が興味を持って授業に臨めるよう工夫した。さらには、関連する過去の国家試験問題を提示し、学生に問いながら双方向性となるよう留意した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	分娩期のケア		21	助産系（4年生22名）の必修科目である。分娩助助技術演習および技術試験について、主担当として学生の主体性や積極性・自主性を重要視して取り組んだ。分娩助助技術については、デモンストレーションの実施や動画視聴を活用した。対面だけでなくTeams等のコメント機能を活用し、学生の疑問・質問に対応し、学生の練習が円滑に進むよう心がけた。また、助産過程ではGWを担当した。総じて、助産学生として、対象者に寄り添い、思いやる気持ちを大事にできることの重要性を伝えることに留意して関わった。
2	母性看護学Ⅱ		8	3年生130名の必修授業である。退行性変化の演習の主担当として、4事例を作成し、観察技術の理解と習得、褥婦から直接得られる情報の重要性およびアセスメントのポイントを理解できるよう関わった。また、進行性変化と母乳育児支援の演習の副担当として演習の進行を助けた。主担当教員をサポートしながら、学生の主体性・自主性を尊重してロールプレイできるよう、適宜助言しながら進め、疑問・質問に対応した。
3	周産期のケア	○	17	助産師外来演習については副担当として、学生が妊婦を総合的にアセスメントし、支援につなげられる視点に気づけるような関わりを意識した。CTG演習においても副担当として学生の装着技術について助言・支援した。その他演習すべてについて統括した。模擬集団健康教育は、1Gを担当しながら、科目責任者としての統括を行い、GWや発表会が円滑に進むよう努めた。また、すべての演習について、新任教員の演習案作成時点からおおよびGW時の関わりなど支援した。

(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	助産学実習Ⅰ	○	2024.5-2024.6	助産系（4年生22名）の必修科目である。市区町村保健センター4施設において、学生が、地域で暮らす母子だけでなくその家族にも目を向けて支援を考えられるよう、また、地域と病産院との連携の必要性に気づけるような関わりを重視した。科目責任者として、実習が円滑に進むよう、施設と調整した。 学内カンファレンスでは、5－6名×2Gを担当し、学生間の実習体験の相違からの学びの共有を重視して関わり、限られた期間の実習の学びが最大限となるよう支援した。
2	助産学実習Ⅱ		2024.8-2024.9	産科病棟での実習を1施設（助産系4年生2名）を担当した。円滑な実習となるよう、施設と調整した。また、助産師学生としての倫理観と責任感を意識して学べるよう、かつ、思考の整理や技術の獲得について支援した。また、別施設を担当していた非常勤教員のサポートも行った。
3	母性看護学実習		2024.5-2024.6	2施設の病棟実習を担当した。1Gあたり5－8名の学生が円滑に実習できるよう、施設との調整を密に図るよう努めた。新任教員の指導およびサポートも行った。学生に対し、母子の健康状態だけでなく、愛着形成の視点も大切にしたい関わりができるよう支援した。
4	総合実習（母性看護学領域）		2024.7	病棟・外来実習を1施設（助産系4年生3名）を主担当として、1施設（同4名）を臨時で担当した。日々のカンファレンスおよび学内カンファレンスも含め、母子の退院後の地域での生活を見据えた支援を考えられ、かつ、最大限の学びとなるよう支援した。
5	IPW実習		2024年10月	対面実習にて、1施設1G6名を担当した。教員FTとして施設FTとの密な相談・調整を心がけた。学生個々の専門性に目を向けつつも、相手を尊重して関わることの重要性に気づけるような関わりを意識し、活発な討議を支援した。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2024.4-2024.12	主指導	4名 副指導0名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	川口市立看護専門学校	2025.1-2025.3	「論理学2」を、非常勤講師として試験含め8コマ担当した。2事例を用い、グループでの討議・発表を中心に進め、毎回のリフレクションにより学生自身の学習の振り返りを支援した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	ベビーマッサージ講師	越谷市児童館ヒマワリ	生後3か月～8か月児のベビーマッサージ教室	2025.3
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	越谷市 人権・男女共同参画推進課	男女共同参画推進委員 会長		2023.7～現在
2	日本母性看護学会	学術支援委員		2021.4～現在
3	日本母性看護学会	選挙管理運営部会委員		2020.10～2024.9
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			

(4) その他			
	項目	相手方等	内容
1	該当なし		
5. 学内運営			
	項目	内容	
1	全学的委員会及びセンター業務等	カリキュラム検討部会	
2	学科等における委員会等	看護学科 カリキュラム運営検討委員会	
3	学科等における委員会等	就職支援担当者会	
4	学科等における委員会等	総合実習運営担当	
5	大学広報活動	オープンキャンパス	
6	学生支援	3年生担任	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		